

## 古典の中の人とからだ(3)

——出エジプト記の中から——

平 沢 彌一郎\*<sup>1)</sup>・白 井 永 男\*<sup>2)</sup>

## Man and Body Described in the Classics (3)

——Man and body described in the EXODUS——

Yaichiro HIRASAWA and Nagao USUI

### ABSTRACT

Before the great leading character of the Israelites named Moses appeared in Exodus, Yahwe worked to keep alive all the creatures on the earth which He had created out of the disordered universe. Among them were a man and a woman who God made in his own image.

Moses was always under the control of Yahwe, as if grasped firmly by the hands of God. That is how God's love was revealed to Moses. And the Israelites following Moses were also willing to receive it with a humble mind, just as Moses did.

In Exodus, the word 'hand' is used as many as 95 times, including references to God, Moses and people of Israel. Some other words relating to the life of human beings, such as 'life' (9 times), 'to die' (20 times), 'to kill' (18 times) are also used there.

It is in 'Ten Commandments' that Yahwe shows the moral code to be obeyed by those who believe in Him and live with Him. Those commandments, given to Moses by God, confirm that the absolute ruler to lead us is Jahwe, the Creator.

20 3 לא־יְהִי־לְךָ אֱלֹהִים אֲחֵרִים עַל־פְּנֵי : 4 לֹא־תַעֲשֶׂה לְךָ  
thyself for make not shalt Thou .me besides <sup>1</sup>another <sup>2</sup>god thee to be not Shall  
פְּסוּל וְכָל־תְּמוּנָה אֲשֶׁר בַּשָּׁמַיִם מִמֶּעַל וְאֲשֶׁר בָּאָרֶץ  
earth the in (is) which and . above(from) heavens the in (is) which form any and : image graven a  
מִתַּחַת וְאֲשֶׁר בַּמַּיִם מִתַּחַת לָאָרֶץ : 5 לֹא־תִשְׁתַּחֲוֶה  
thyself prostrate not shalt thouearth the(to) under(from) water the in (is) which and ,beneath(from)  
לָהֶם וְלֹא תַעֲבָדֵם כִּי אֲנֹכִי יְהוָה אֱלֹהֶיךָ אֵל קַנָּז  
<sup>1</sup>jealous <sup>2</sup>God a .God thy Jehovah(am) I for ; them serve <sup>2</sup>shalt <sup>1</sup>thou <sup>3</sup>not and ,them to

\*<sup>1)</sup> 放送大学教授 (保健体育)

\*<sup>2)</sup> 放送大学助教授 (保健体育)

פְּקֹד עֵינַי אֶת־עֲלֵי־שָׁמַיִם  
 ,generation third the upon, children upon fathers of iniquity the visiting  
 וְעַל־רִבְעִים וְלֶאֱלָפִים לְחַסְדֵּךָ וְעָשִׂיתָ 6 : לְשׂוֹנְאֵי  
 ,thousands to kindness doing and : me hating those to, generation fourth the upon and  
 לְאַהֲבֵי וְלִשְׁמֵרֵי מִצְוֹתַי 7 : לֹא תִשָּׂא  
 utter <sup>2</sup>shalt <sup>1</sup>thou<sup>3</sup>Not .commandments my keeping those to and ,me loving those to  
 אֶת־שֵׁם־יְהוָה אֱלֹהֶיךָ לְשׂוֹא כִּי לֹא יִנָּקֶה יְהוָה אֶת־אֲשֶׁר־יִשָּׂא  
 utters who him Jehovah unpunished leave will not for : vanity for God thy Jehovah of name the  
 אֶת־שְׁמוֹ לְשׂוֹא 8 : זְכוֹר אֶת־יוֹם הַשַּׁבָּת לְקַדְּשׁוֹ 9 : שִׁשֶּׁת יָמִים  
 days Six .it sanctify to ,sabbath the of day the Remember .vanity for name his  
 תַּעֲבֹד וְעָשִׂיתָ כָּל־מְלָאכָתְךָ 10 : וְיוֹם הַשַּׁבָּת לַיהוָה  
 Jehovah to sabbath a (is) <sup>1</sup>seventh <sup>2</sup>day the(and) : work thy all do and ,labor mayest thou  
 אֱלֹהֶיךָ לֹא־תַעֲשֶׂה כָּל־מְלָאכָה אַתָּה וְגַרְךָ אֲשֶׁר בְּשַׁעְרֶיךָ 11 : כִּי שֵׁשֶׁת־יָמִים  
 ,slave male thy ,daughter thy and ,son thy and ,thou ,work any do not shalt thou ,God thy  
 וְאִמְתְּךָ וּבְהֵמָתְךָ וְגַרְךָ אֲשֶׁר בְּשַׁעְרֶיךָ 11 : כִּי שֵׁשֶׁת־יָמִים  
 days six (in) For ,gates thy in (is) who sojourner thy and ,cattle thy and ,slave female thy and  
 עָשָׂה יְהוָה אֶת־הַשָּׁמַיִם וְאֶת־הָאָרֶץ אֶת־הַיָּם וְאֶת־כָּל־אֲשֶׁר־בָּם וַיָּנַח  
 rested he and ,them in (is) which all and ,sea the ,earth the and ,heavens the Jehovah made  
 בַּיּוֹם הַשְּׁבִיעִי עַל־כֵּן בֵּרַךְ יְהוָה אֶת־יוֹם הַשַּׁבָּת וַיְקַדְּשֶׁהוּ :  
 .it sanctified and ,sabbath the of day the Jehovah blessed therefore : <sup>1</sup>seventh <sup>2</sup>day the on  
 כָּבֵד אֶת־אָבִיךָ וְאֶת־אִמְךָ לְמַעַן יֵאָרְכוּן יָמֶיךָ עַל הָאָדָמָה 12  
 ,ground the upon days thy long be may that order in : mother thy and father thy Honor  
 אֲשֶׁר־יְהוָה אֱלֹהֶיךָ נָתַן לָּךְ 13 : לֹא תִרְצַח 14 : לֹא  
<sup>3</sup>Not .kill <sup>2</sup>shalt <sup>1</sup>thou <sup>3</sup>Not .thee to giving (is) God thy Jehovah which  
 תִּגָּאֵף 15 : לֹא תִגָּנֹב 16 : לֹא־תִעֲנֶנֶה בְּרֵעֶךָ  
 neighbor thy against witness not shalt Thou .steal <sup>2</sup>shalt <sup>1</sup>thou <sup>3</sup>Not .adultery commit <sup>2</sup>shalt <sup>1</sup>thou  
 עַד שִׁקְרָה 17 : לֹא תִחַמְדַּת בֵּית רֵעֶךָ לֹא־תִחַמְדַּת  
 covet not shalt thou ,neighbor thy of house the covet <sup>2</sup>shalt <sup>1</sup>thou <sup>3</sup>Not .falsehood of witness a (as)  
 אִשְׁתְּךָ רֵעֶךָ יַעֲבֹדוּ וְאִמְתּוֹ וְשׂוֹרֵי וְחַמְרוֹ וְכָל  
 anything or ,ass his or ,ox his or ,slave female his or ,slave male his or ,neighbor thy of wife the  
 אֲשֶׁר לְרֵעֶךָ :  
 ,neighbor thy to (is) which

(遂語英訳は GEORGE RICKER BERRY による)

- 20 3お前は、わたし以外の、いかなるものも神とするな。  
 4お前は、自分のために、偶像を造るな。上は天、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものの、いかなる形も造るな。  
 5またそれに頭を下げるな。それに仕えるな。お前の神、主であるわたしは、嫉妬の神だ。わたしを憎む者には、父の罪がその子に報いて、三代四代に及ぼし、  
 6わたしを畏れ、わたしの言に聴き従う者には、恵を与え、千代に至る。  
 7お前は、お前の神、ヤハウエの名を、勝手にするな。ヤハウエは、その名を勝手に口にする者を、断乎としてゆるさない。

- 8安息日を守れ。そしてこれを聖とせよ。  
 9六日間働き、しかも全力投球で励め。  
 10七日目は、ヤハウェの安息日。だから一切の仕事をするな。お前はもとより、お前の伴、娘、男奴隷、女奴隷、家畜、またお前の門の中にいる他の国の人も、そのようにせよ。  
 11ヤハウェは、六日のうちに、天と地と海と、またその中の一切のものを造って、七日目に休んだからである。そこで、ヤハウェは、安息日を祝って、聖とした。  
 12お前の父と母とを大切にせよ。これはお前の神、ヤハウェが下さった地で、お前が長く生きるためである。  
 13お前は、人を殺すな。  
 14お前は、姦淫をするな。  
 15お前は、泥棒をするな。  
 16お前は、隣りにいる人のことについて偽証するな。  
 17お前は、隣りの人の家を欲深くほしがるな。お隣の人の女房、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、はもとより、すべての隣りの人のものに手を出すな。

(私訳)

## I. はじめに

出エジプト記The Book of Exodusは、聖書ないしその等一区分である律法Law, תּוֹרָה (トーラー) νόμος において、創世記に続く第二番目の書である。ここには神ヤハウェYahweh, Jahweh, יְהוָה の自己顕示をはじめ指導者モーセ מֹשֶׁה, Moses の選び、イスラエルの民のエジプトからの解放(出エジプト)、シナイ山での神と民との契約、十戒をはじめとする古い法集などが含まれ、旧約宗教の中核的信仰の原事実が記されている。この点からも本書の重要性は明瞭であり、本稿においてこの書の中から「人とからだ」について検索することの意義は亦きわめて深いものであると考える。

本書の名称である「出エジプト記」とは、旧約聖書の最古のギリシャ語訳(いわゆる七十人訳Septuagint)で名付けられた書名 Ἔξοδος (ἐξ Αἰγύπτου) = 脱出(エジプトからの)に由来する。この書名はウルガタVulgataで採用され、邦語に及んだ。しかし、この書名は本書の重要な部分ではあるが、最初の15章の内容を表示するにとどまる。

ヘブル語聖書では、慣例にしたがって本書の最初の2語をとって名称とする。すなわち、שְׁמֵי הַשָּׁמַיִם [さてこれらは……名である]、または省略して שְׁמֵי [名] が用いられる。この名称が内容を表わすものでないことは言うまでもない。

さて、関根正雄訳「出エジプト記」(岩波文庫)から、「人とからだ」に関する文字を拾い合ってみた。その結果、67種類が283回にわたって使用されていることがわかった。そこで本書の内容分解表を作り(表1)、その内容に従って用語が何回使用されているかをまとめてみた(表2)。これらの作業から、使用されている用語は大きく次の三つに分類された。

### 1. 身体各部位の用語

2. 生命に関する用語
3. からだの状態を表わす用語

本書で「身体各部位」に関する用語として最も多く使用されているものは「手」(95回)である。神の手すなわち神の愛がまずモーセという一人の「人」をしっかりとつかまえる。モーセはその愛の手に対して、<sup>もろく</sup>両手をさしのべて受ける。さらに、神の手は、モーセに従うイスラエルの人々にもさしのべられる。その人々は、モーセと同じようにそれを受けつつ、エジプトを脱出する。もとより本書で使用されている「手」は、目で見ることの出来る「手」と、目に見ることのできない「愛の手」が述べられている。これらは主として本書の前半に出てくる。

つぎに、本書の中心的内容として「十戒」というシナイ契約と法がその後半に述べられている。そこには、「生命にかかわる用語」、すなわち「生命」、「殺す」、そして「死ぬ」が多く用いられている(48回)。さらに、「流産」、「つんぼ」、「癩病」などの「からだの状態」に関する用語が多く用いられていることも(49回)、本書の特長の一つを表わしているといえよう。

表1 出エジプト記の内容分解表

A	エジプトにおける圧制と出エジプト(脱出)		1: 1-15: 21
	(1)	イスラエル人圧迫とモーセ誕生	1: 1- 2: 10
	(2)	モーセの召命とパロの交渉	2: 11- 7: 7
	(3)	十の災禍	7: 8-11: 10
	(4)	過越の祭・種入れぬパンの祭り 首子に関する規定その他	12: 1-13: 16
	(5)	脱出・海の奇蹟・勝利の讃歌	13: 17-15: 21
B	荒野彷徨		15: 22-18: 27
	(6)	飢え・渇き・戦い	15: 22-17: 16
	(7)	エテロの来訪	18: 1-27
C	シナイ契約と法		19: 1-40: 38
	(8)	神顕現・十戒	19: 1-20: 21
	(9)	契約の書	20: 22-23: 33
	(10)	契約の批准	24: 1-18
	(11)	祭儀的指示集その他	25: 1-31: 18
	(12)	背教と契約更新	32: 1-34: 35
	(13)	祭儀的指示の実施その他	35: 1-40: 38

II. 用語の使用箇所〔表2:(1)~(12)〕

(1) イスラエル圧迫とモーセ誕生 (1:1~2:10)

章と節	使 用 箇 所
1-5	ヤコブの胎から出た者ばかり 70 人
-6	その世代の者はみな死んだ
-15	ヘブライ人の産婆
-16	生れる子の股の所を見て
-17	しかし産婆たちは神を恐れ
-18	エジプトの王が産婆たちを呼んで
-19	すると産婆たちがパロに言った 産婆が来る前に生んでしまうのです
-20	そこで神は産婆たちを恵み深くあしらわれた
-21	産婆たちが神を恐れたので
2-2	その女は身ごもって、男の子を生み
-7	ヘブライ女たちの中から乳母を呼んでみましょうか この子の乳をやってくれるでしょう
-9	わたしのためにこの子に乳を飲ませておくれ そこで女はその子連れて行って、乳を飲ませた

(2) モーセの召命とパロの交渉 (2:11-7:7)

章と節	使 用 箇 所
2-12	このエジプト人を打ち殺し、砂中に埋めた
-14	エジプト人を殺したようにわたしを殺そうというのか
-15	モーセを殺そうと
-23	エジプトの王は死んだ
3-5	君の足から靴をぬげ
-6	そこでモーセはその顔を隠した
-8	良き広き地、乳と密の流れる地にいたらせようとして
-17	乳と密の流れる地にいたらせよう
-18	ヤハウエがわれわれにお姿を現されました
-19	力ある手が加わらなければ
-20	それでわたしは手をのばして
-21	空手で立ち去ることはないであろう
4-2	君の手にあるものは何だ
-4	君の手を伸ばして、その尾をつかめ モーセが手を伸ばして、それをつかまえると その掌の中で杖になった
-6	君の手を君の懐に入れよ モーセが手を懐に入れて、それから取り出して見ると 自分の手が癩病で雪のように白くなっていた

- 7 君の手を懐にもどせ  
彼がその手を懐にもどして再び  
懐から取り出して見ると  
またもとの彼の肉に帰っていた
- 9 ナイル川からとった水は乾いた地で血に変るであろう
- 10 わたしは口重く、舌重き者なのです
- 11 人の口を造った者は一体誰なのだ  
人をおしにしたり  
つんぼにしたり  
目あきにしたり  
目くらにしたりする者は誰なのだ
- 12 わたしが君の口とともにあり
- 15 言葉を彼の口に入れよ  
わたしは君の口  
彼の口とともにあり
- 16 彼は君の口となり、君は彼に対して神となるだろう
- 17 君はこの杖を手にとるがよい
- 19 君の命を求めた人々はみな死んだから
- 20 モーセは神の杖をその手にたずさえていた
- 21 わたしが君の手に与えたすべての不思議を忘れないで
- 23 わたしは君の長子を殺そう
- 24 彼を殺そうとした
- 25 チッボラは尖った石を取ってその子の陽の皮を切り  
モーセの脚に触れさせて言った  
あなたはわたしにとってハサン・ダーミーム（血の割礼を受けた人）です
- 26 割礼を受けた者のことであった
- 30 民の目の前で多くのしるしを行なった
- 31 彼らの苦しみに目をとめられたことを聞いて  
身をかがめて、礼拝した
- 5-3 ヘブライ人の神がわれわれにお姿を現されたのです  
彼がわれわれを疫病か剣で打つことのないように
- 13 酷使する者が尻べたをたたいて
- 21 あなた方はパロの目と  
その僕たちの眼にわれわれを不評判にした  
われわれを殺すための剣を彼らの手に与える結果になった
- 6-1 まことに力ある手の故に  
力ある手の故に
- 6 伸ばされた腕と大いなる審判をもって
- 8 わたしが手を上げて
- 7-4 わたしはわが手をエジプトに加え
- 5 わたしがエジプトの上に手を伸ばし

## (3) 十の災禍 (7: 8-11: 10)

章と節	使用箇所
7-15	蛇に変わった杖を君の手にとって

-17	わたしはわが手にある杖で、 ナイル川の水を打ち、水を血に変わらせる
-19	右の手をエジプトの水の上に伸べよ そしてそれらを血とならせよ 木々や石にも血があるであろう
-20	パロとその僕たちの眼前でナイル川の水を打った するとナイルの水はみな血に変わった
-21	血はエジプトの全土にあった
8-1	杖をもった君の手を
-2	そこでアロンは手をエジプトの水の上に伸べた
-15	あれは神の指です
-22	あなた方の眼前でささげるなら
9-3	ヤハウエの手が はなはだ重い疫病を生ずるであろう
-8	君たちは両手に一杯 モーセはそれをパロの眼の前で
-9	エジプト全土で炎症をおこし はれ物を生ずるであろう
-10	はれ物による炎症をおこした
-11	その炎症がすべてのエジプト人と同じく
-15	今すぐわたしはわが手を伸べて 君と君の民を疫病で打ち
-22	君の手を天に向かって伸ばし
-33	掌をヤハウエに向かってひろげた
10-2	君の子と孫の耳に
-3	君はわが前に身をかがめることを
-6	彼は踵を返して
-12	君の手をいなごのために
-21	君の手を天に向かって伸べ
-22	モーセがその手を天に向かって伸べると
-25	われわれの手に与えて下さい
-28	わたしの前にお前は死刑だ
-29	再びあなたの顔を見ることはありませんまい
11-2	民の耳に告げて
-5	みな死ぬであろう

(4) 過越・種入れぬパンの祭り・首子に関する規定その他(12:1-13:16)

章と節	使用箇所
12-11	腰に帯をし 足に靴をはき 杖を手にもって
-27	民は身をかがめて礼拝した
-33	みな死んでしまふ
-34	マントに包んで肩に背負った
-36	エジプト人の目に

-44	割 <small>き</small> 礼 <small>れい</small> を施 <small>ほ</small> し
-48	すべての男 <small>おとこ</small> は割 <small>き</small> 礼 <small>れい</small> を受け
	すべての無 <small>な</small> 割 <small>き</small> 礼 <small>れい</small> の者 <small>もの</small> は
13-1	すべての胎 <small>こころ</small> を開 <small>ひら</small> くものは
-3	ヤハウエは強 <small>つよ</small> い手 <small>て</small> をもつて
-5	乳 <small>ちち</small> と蜜 <small>みつ</small> の流 <small>なが</small> れる地 <small>ち</small> に
-9	ヤハウエの律 <small>りつ</small> 法 <small>ぽう</small> がお前 <small>まへ</small> の口 <small>くち</small> にあるように
	それがお前 <small>まへ</small> の手 <small>て</small> にある徴 <small>しるし</small> となり
	お前 <small>まへ</small> の目 <small>め</small> の間 <small>ま</small> の覚 <small>おぼ</small> えとなるように
	何故 <small>なに</small> なら強 <small>つよ</small> い手 <small>て</small> をもつて
-12	君 <small>きみ</small> は胎 <small>こころ</small> を開 <small>ひら</small> くすべてのものを
-14	奴隷 <small>こ</small> の家 <small>いへ</small> から強 <small>つよ</small> い手 <small>て</small> をもつて
-15	殺 <small>ころ</small> された
	今 <small>いま</small> すべての母 <small>はは</small> の胎 <small>こころ</small> を開 <small>ひら</small> く雄 <small>おとこ</small> のものを
-16	お前 <small>まへ</small> の手 <small>て</small> にある徴 <small>しるし</small> となり
	お前 <small>まへ</small> の目 <small>め</small> の間 <small>ま</small> の覚 <small>おぼ</small> えの徴 <small>しるし</small> となるべきである
	何故 <small>なに</small> なら強 <small>つよ</small> い手 <small>て</small> をもつてヤハウエは

## (5) 脱出・海の奇蹟・勝利の讃歌 (13:17-15:21)

章と節	使用箇所
13-19	モーセはヨセフの骨 <small>ほね</small> を一緒に携 <small>たづな</small> えていた
	ここからわたしの骨 <small>ほね</small> を一緒に携 <small>たづな</small> えて上 <small>あ</small> って賛 <small>たた</small> えたい
14-8	高 <small>たか</small> らかなみ手 <small>て</small> によって出 <small>で</small> たのである
-10	パロが近 <small>ちか</small> づくといスラエルの子 <small>こ</small> らは目 <small>め</small> を上げた
-11	荒野 <small>あらかし</small> に死 <small>し</small> なせようとするのか
-12	荒野 <small>あらかし</small> で死 <small>し</small> ぬよりも
-16	君 <small>きみ</small> の手 <small>て</small> を海 <small>うみ</small> の上に伸 <small>の</small> ばして海 <small>うみ</small> を分け
-21	モーセが海 <small>うみ</small> の上にその手 <small>て</small> を伸 <small>の</small> べると
-26	君 <small>きみ</small> の手 <small>て</small> を海 <small>うみ</small> の上に伸 <small>の</small> べて
-27	モーセが海 <small>うみ</small> の上にその手 <small>て</small> を伸 <small>の</small> べると
-30	イスラエルをエジプト人の手 <small>て</small> から救 <small>すく</small> った
	海 <small>うみ</small> の岸 <small>きし</small> 辺 <small>へ</small> に死 <small>し</small> んでいた
-31	大 <small>おほ</small> いなるみ手 <small>て</small> を見た
15-6	右 <small>みぎ</small> のみ手 <small>て</small> は、ヤハウエよ、力 <small>ちから</small> によってさかえ
	右 <small>みぎ</small> のみ手 <small>て</small> は、ヤハウエよ、敵 <small>たかみ</small> を砕 <small>くだ</small> く
-8	あなた <small>あなた</small> の鼻 <small>はな</small> の息 <small>いき</small> によって、水 <small>みづ</small> 逆 <small>さか</small> 立ち
-9	わが手 <small>て</small> は彼 <small>かれ</small> らを断 <small>き</small> とう
-10	あなたは息 <small>いき</small> を吹 <small>ふ</small> かせた
-12	その右 <small>みぎ</small> のみ腕 <small>うで</small> をのべると地 <small>ち</small> は彼 <small>かれ</small> らを呑 <small>の</small> んだ
-16	み腕 <small>うで</small> の大 <small>おほ</small> いなる力 <small>ちから</small> の前に
-17	主 <small>きり</small> よ、み手 <small>て</small> が備 <small>そな</small> え給 <small>たま</small> うた聖 <small>せい</small> 所 <small>ところ</small> である
-20	ミルヤムは手 <small>て</small> に鼓 <small>つづみ</small> をとった

## (6) 飢え・渇き・戦い (15:22-17:16)

章と節	使用箇所
-----	------

15-26	彼の眼に正しいことを行ない エジプトでわたしが下した病気を われヤハウェは君の医者であるからだ
16-3	ヤハウェの手にかかって死んだ方がましだった
17-5	あの杖を手にとって行くのだ
-6	イスラエルの長老たちの眼前でそのように行なった
-9	神の杖をわが手に持って
-11	モーセがその手をあげている間 彼がその手を下すと
-12	モーセの手が疲れてきたので モーセの手を支えた モーセの手は不動であった
-14	ヨシュアの耳に言いかけよ
-16	手をヤハウェの軍旗につけよ

(7) エテロの来訪 (18：1-27)

章と節	使用箇所
18-7	低頭し、彼に接吻し
-9	イスラエルをエジプト人の手から救い出された
-10	彼は君たちをエジプト人の手と パロの手から救い出された エジプト人の手の下から救い出された

(8) 神顕現・十戒 (19：1-20：21)

章と節	使用箇所
19-11	すべての民の目の前で
-12	必ず死なねばならない
-13	手がそれにふれてもいけない あるいは射殺され 生命を全うするものはない
-21	彼らのうちの多くの者が死ぬことがないように
-22	祭司たちもその身を聖めよ
20-13	殺してはならない
-19	われわれが死ぬことのないために

(9) 契約の書 (20：22-23：33)

章と節	使用箇所
20-26	君の裸がその上で見えることのないためである
21-6	主人が彼の耳をきりでさし通さなければならない
-12	人を打ってその者が死んだ時は 打った者は必ず死ななければならない
-13	たくらんで殺したのでなく 彼の手にとまたまそうさせた

- 14 隣人を殺そうと  
死なしめなければならない
- 15 父または母を打つ者は必ず死ななければならない
- 16 手もとにおいている  
必ず死ななければならない
- 17 必ず死ななければならない
- 18 死にいたらず
- 20 その手の下で殺した
- 22 人々が喧嘩をして、妊娠している女にぶつかり  
流産させ、しかしその他の損害はない時
- 23 損害が生じた場合、生命には生命をもって
- 24 目には目を  
歯には歯を  
手には手を足には足を
- 25 火傷には火傷を  
生傷には生傷を  
打傷には打傷をもって償うべきである
- 26 人がその奴隷の眼を打ち  
あるいは女奴隷の眼を打ってそれをつぶした時は  
その眼のゆえに
- 27 もしその奴隷の歯  
女奴隷の歯を折った場合は  
その歯のゆえに
- 28 突いて死なせた時は
- 29 その持主も死ななければならない
- 30 人の命の償いとして
- 22-1 見つかって打ち殺された場合は  
その血の責任は打ち殺した者にはない
- 2 血の責任が生じる  
盗んだ物の代りに身を売らねばならない
- 7 隣人の持物にその手をつけなかった
- 10 その手を隣人の所有物につけなかったかどうか
- 18 獣と寝る者は必ず死ななければならない
- 24 君たちを剣で殺し
- 26 彼の膚の上につける
- 23-1 君は悪人に手をかけて
- 3 訴訟で強い者の肩を持つてはならない
- 7 義しい者を殺してはならない
- 8 賄いは眼あきを盲目にし
- 13 その名が君の口から聞こえてはならない
- 19 その母親の脂肪で
- 26 流産する女  
石女はいなくなるであろう
- 27 君のすべての敵にわたしは背を向けさせよう
- 31 君たちの手に与え

(10) 契約の批准 (24:1-18)

章と節	使用箇所
24-10	そのみ足の下には
-11	選ばれた者の方へみ手は伸ばされることはなく
-17	イスラエルの子らの眼に

(11) 祭儀的指示集その他 (25:1-31:18)

章と節	使用箇所
25-20	その顔を互いに向けあい
-25	君はそのまわりに手はばのわくをつくり
28-8	エポデを身につけるためのバンド
-12	彼らの名前をその両方の肩につけ
-29	子らの名前を胸の所の
-30	アロンの胸の所にあり
	ヤハウエの前にたえずその胸に持ち運ばなければならない
-32	その真中に首を通す口をつくり
-35	この上衣を勤めるときに身につけ
	そうすれば彼は死ぬことはない
-38	こうしてそれはアロンの額にあり
	その花形はたえずアロンの額にあり
-41	その手を満たして
-42	彼らの裸を蔽うために亜麻布のズボンをつくれ
	それは腰から
	ひざまでとどかねばならない
-43	そうすれば彼らは罪を負って死ぬことはない
29-6	その頭にターバンをかぶらせ
-7	注ぎの油をとって彼の頭にかけて
-9	君はアロンの手と
	その子らの手を満たさなければならない
-10	その手を子牛の頭におかななければならない
-15	雄牛の頭に手をおき
-19	アロンとその子らは手を雄牛の頭に
-20	アロンの右の耳たぶと
	その子らの右の耳たぶ
	および彼らの右手の親指と
	右足の親指につけ
-24	アロンの掌と
	その子らの掌の上におき
-25	それらのものを彼らの手からとって
30-11	おのおのがその生命の贖い代をヤハウエに献ぐべきである
-15	その生命を贖うため
-16	彼らの生命を贖うであろう
-19	その手足を洗わなければならない
-20	そうすれば死ぬことはない

- 21 彼らは手足を洗わなければならない  
 そうすれば死ぬことはない
- 31 人の肉にそれを注いではならない
- 31-14 それを潰す者は必ず死ななければならない  
 その者の生命はその民の間から
- 15 安息日に工をなすすべての者は必ず死ななければならない
- 17 7日目に休んで、いきをつかれたからである
- 18 神の指で書かれた石の板

## (12) 背教と契約更知 (32:1-34:35)

章と節	使用箇所
32-2	息女たちの耳にある
-3	耳につけていた金の耳輪
-4	アロンは彼らの手からそれを受けとって
-11	大いなる力と強きみ手をもって
-15	その手に2枚の板を持っていた
-19	手にもっていた板を投げつけ
-24	それをその身からはずして
-27	おのおのその腰に剣を帯びよ おのおのその兄弟、隣人、親族を殺せ
-29	その身をヤハウエに献げよ
33-3	乳と蜜の流れる地へと
-4	誰も飾りを身につけなかった
-6	その飾りを身につけなかった
-10	その天幕の入口で身をかがめて礼拝した
-11	友と語るように顔と顔をあわせてモーセと語られた
-12	山で彼らを殺し
-14	わが顔がともに行くであろう
-15	あなたのみ顔がともに行き給わないなら
-19	君の顔の前を通らせよう ヤハウエの名を君の顔の前に呼ばわり
-20	君はわが顔を見ることは出来ない 人がわが顔を見て
-22	わたしの手で君を蔽う
-23	わが手を除き
34-4	その手に2枚の石の板を
-9	わたしがあなたの眼に恵を得たのなら
-19	すべて始めて母の胎を開いたものはわたしのものである
-26	その母の乳で
-29	その手にあつたが 自分の顔の膚が光っているのを知らなかった
-30	その顔の膚が光っているので
-33	彼はその顔にヴェールをかぶった

-35	モーセの顔を見ると モーセの顔の膚は光っていた 再びその顔にヴェールをかぶるのであった
-----	---

(13) 祭儀的指示の実施その他 (35 : 1-40 : 38)

章と節	使 用 箇 所
35-2	すべてその日に工をなす者は死ななければならない
-25	女は自らの手で紡ぎ
37-12	さらにそのまわりに手幅のわくをつくり
39-5	エポデを身につけるため
-9	その長さは1手幅 その幅も1手幅
40-31	その手足を洗うためであった
-38	イスラエルの全家の眼前に

III. 身体各部位の名称と使用回数〔表3・(1)~(7)〕

(1) 頭部位における名称と使用回数

部 位	使 用 箇 所				回 数
頭	רֹס (rō's)	κεφαλή	head		2
	29 : 6, 29 : 7				
低頭	18 : 7				1
額	מֵצַח (mētsach)	μέτωπον	forehead		2
	28 : 38, 28 : 38				
顔	פָּנִים (pānim)	πρόσωπον	face		18
	3 : 6, 10 : 28, 33 : 15, 33 : 19, 34 : 33,	10 : 29, 33 : 19, 34 : 35,	25 : 20, 33 : 20, 34 : 35	33 : 11, 33 : 20, 34 : 29,	33 : 11, 34 : 30,
目	אֵין ('ayin)	ὄφθαλμός	eye		7
	5 : 21, 12 : 36,	13 : 9, 13 : 16,	14 : 10, 21 : 24,	21 : 24	
眼	אֵין ('ayin)	ὄφθαλμός	eye		7
	5 : 21, 15 : 26,	21 : 26, 21 : 26,	21 : 26, 24 : 17,	34 : 9	
目の前	אֵין ('ayin),	עֵינַיִם ('ēnayim)			7
	4 : 30, 7 : 20,	8 : 22, 9 : 8,	17 : 6, 19 : 11,	40 : 38	
目をとめる	נָבַט (nabat)	ἐμβλέπω	see		1
	4 : 31				
耳	אָזֶן ('ōzen)	οὖς	ear		6
	10 : 2, 11 : 2,	17 : 14, 21 : 6,	32 : 2, 32 : 3		
耳たぶ	אָזֶן אֶזְרִיבָּ (tenūk ōzen)		lobe		2
	29 : 20, 29 : 20				

鼻	אֵפַיִם ('appayim) 15 : 8	nose	1
口	פֶּה (peh) 4 : 10, 4 : 11, 13 : 9, 23 : 13	στόμα mouth	9
歯	שֵׁן (shēn) 21 : 24, 21 : 24,	ὀδούς tooth	5
舌	לָשׁוֹן (lāshōn) 4 : 10	γλῶσσα tongue	1
首	רֹשׁ (rōsh) 28 : 32	κεφαλή head	1

## (2) 体幹部における名称と回数

部 位	使 用 箇 所	回 数	
肩	כֶּתֶף (sh <sup>e</sup> kem) 12 : 34, 23 : 3, 28 : 12	ὤμος shoulder	3
胸	לֵב (lēb) + גִּגְוֹן (s <sup>e</sup> gor) 28 : 29, 28 : 30, 28 : 30	κόλπος heart	3
懐	חֶמֶק (chēq) 4 : 6, 4 : 6,	κόλπος bosom	5
背	אֶרֶץ ('ōreph) 23 : 27	νῶτος back	1
腰	יָרֵךְ (yārēk) 12 : 11, 28 : 42, 32 : 27	ὀσφύς waist	3
胎	רֵחֶם (rechem) 1 : 5, 13 : 2, 13 : 12, 13 : 15, 34 : 19	κοιλία womb	5
股	1 : 16		1
尻	5 : 13		1
尾	זָנָב (zanāb) 4 : 4	οὐρά tail	1
陽の皮	עֹרֶלָה ('orlāh) 4 : 25	foreskin	1

## (3) 上肢部における名称と使用回数

部 位	使 用 箇 所	回 数	
腕	זְרֹעַ (z <sup>e</sup> rōa') 6 : 6, 15 : 12, 15 : 16	βραχίον arm	3
手	יָד (yād), כַּף (kaph) 3 : 19, 3 : 20, 4 : 6, 4 : 6, 3 : 21, 4 : 2, 4 : 7, 4 : 7,	χείρ hand	4 : 4, 4 : 4, 4 : 6, 4 : 17, 4 : 20, 4 : 21,

	5 : 21, 6 : 1, 6 : 1, 6 : 8, 7 : 4, 7 : 5, 7 : 15, 7 : 17, 7 : 19, 8 : 1, 8 : 2, 9 : 3, 9 : 15, 9 : 22, 10 : 12, 10 : 21, 10 : 22, 10 : 25, 12 : 11, 13 : 3, 13 : 9, 13 : 9, 13 : 14, 13 : 16, 13 : 16, 14 : 8, 14 : 16, 14 : 21, 14 : 26, 14 : 27, 14 : 30, 14 : 31, 15 : 6, 15 : 6, 15 : 9, 15 : 17, 15 : 20, 16 : 3, 17 : 5, 17 : 9, 17 : 11, 17 : 11, 17 : 12, 17 : 12, 17 : 12, 17 : 16, 18 : 9, 18 : 10, 18 : 10, 18 : 10, 19 : 13, 21 : 13, 21 : 16, 21 : 20, 21 : 24, 21 : 24, 22 : 7, 22 : 10, 23 : 1, 23 : 31, 24 : 11, 25 : 25, 28 : 41, 29 : 9, 29 : 10, 29 : 15, 29 : 19, 29 : 20, 29 : 25, 30 : 19, 30 : 21, 32 : 4, 32 : 11, 31 : 15, 32 : 19, 33 : 22, 33 : 23, 34 : 4, 34 : 29, 35 : 25, 40 : 31	95
掌	יָד (yād), קַפ (kaph) χεῖρ hand 4 : 4, 9 : 33, 29 : 24, 29 : 24	4
手幅	קַפּוֹחַ (tōphach) hand's breadth 25 : 25, 37 : 12, 39 : 9, 39 : 9	4
指	עֲצָבָא ('etsba') tumb 8 : 15, 29 : 20, 29 : 20, 31 : 18	4

(4) 下肢部における名称と使用回数

部 位	使 用 箇 所	回 数
脚	רֶגֶל (regel) 4 : 25	1
ひざ	יָרֵךְ (yārēk) μηρός knee 28 : 42	1
踵	10 : 6	1
足	רֶגֶל (regel) πούς foot 3 : 5, 12 : 11, 21 : 24, 21 : 24, 24 : 20, 29 : 20, 30 : 19, 30 : 21, 40 : 31	9

(5) 生命に関する用語の回数

部 位	使 用 箇 所	回 数
死ぬ	מָוֹת (mūth) ἀποθνήσκω die 1 : 6, 2 : 23, 4 : 19, 11 : 5, 12 : 33, 14 : 11, 14 : 12, 14 : 30, 16 : 3, 20 : 19, 21 : 12, 21 : 18, 21 : 20, 22 : 18, 28 : 43, 30 : 20, 30 : 21, 31 : 14, 31 : 15, 35 : 2	20
殺す	הָרַג (hārag) ἀποκτείνω strike 1 : 16, 2 : 12, 2 : 14, 2 : 14, 2 : 15, 4 : 23, 4 : 24, 5 : 21, 13 : 15, 19 : 12, 21 : 12, 21 : 14, 21 : 20, 21 : 29, 22 : 24, 23 : 7, 32 : 12, 32 : 27	18

生命	נֶפֶשׁ (nephesh) 4 : 19, 10 : 28, 30 : 16, 31 : 14	ψυχή 21 : 33, 21 : 23,	life 30 : 11, 30 : 12, 30 : 15,	9
----	--	---------------------------	---------------------------------------	---

## (6) からだの状態を表す用語の回数

部 位	使 用 箇 所			回 数
病氣	מַחֲלָה (mach <sup>a</sup> lāh) 15 : 26, 23 : 25	νόσος	sickness	2
妊娠	הָרָה (hārah) 21 : 22	συλλαμβάνω	pregnant	1
流産	שָׁכַח (shākōl) 21 : 22, 23 : 26		miscarry	2
石女	אָקָר ('āqār) 23 : 26	στεῖρος	barren	1
割礼	מִלּוּ (mūl) 4 : 25, 4 : 26, 12 : 44, 12 : 48,	περιτομή	circumcision	5
おし	אִילֵם ('illēm) 4 : 11	κωφός	dumb	1
つんぼ	שֵׁרֵס (hērēs) 4 : 11	κωφός	deaf	1
目あき	פִּיקְעָה (piqqēach) 4 : 11, 23 : 8		clear-sighted	2
目くら	עִוְוֵר ('iwwēr) 4 : 11, 23 : 8		blind	2
癩病	מַצְרָא (m <sup>e</sup> ṣōrā') 4 : 6	λέπρα	disease	1
疫病	דֵּבֶר (deber) 5 : 3, 9 : 3, 9 : 15	λοιμός	pestilence	3
炎症	בֹּאֵר (ba'bū'ōth) 9 : 9, 9 : 10, 9 : 11		fester	3
はれ物	שִׁחִין (sh <sup>e</sup> chīn) 9 : 9, 9 : 10, 9 : 11		boil	3
身ごも る	הָרָה (hārah) 2 : 2	συλλαμβάνω	conceive	1
火傷	קִיּוּיָה (k <sup>e</sup> wiyyāh) 21 : 25, 21 : 25		burn	2
生傷	פֶּטְסָא (petsa') 21 : 25, 21 : 25	μώλωψ	wound	2
打傷	חַבְבָּרָה (chabbārāh) 21 : 25, 21 : 25	πληγή	bruise	2

(7) その他の用語の回数

部 位	使 用 箇 所	回 数
神の姿	3 : 18, 5 : 3	2
医者	רֹפֵא (rōpē) healer 15 : 26	1
産婆	מִיָּלְדֶת (m <sup>e</sup> yalledet) midwife 1 : 15, 1 : 17, 1 : 18, 1 : 19, 1 : 19, 1 : 20, 1 : 21	7
乳母	מֵיִנְקֶת (mēneqet) wet-nurse 2 : 7	1
息	רוּחַ (rūach) πνεῦμα blast 15 : 8, 15 : 10, 31 : 17	3
裸	עֶרְוָה ('eruāh) + בָּשָׂר (bāsār) private part 20 : 26, 28 : 42	2
血	דָּם (dām) αἷμα blood 4 : 9, 4 : 25, 4 : 26, 7 : 17, 7 : 19, 7 : 19, 7 : 20, 7 : 21, 22 : 1, 22 : 2	10
肉	בָּשָׂר (bāsār) σῶμα flesh 4 : 7, 30 : 32	2
骨	עֲצָם ('etsem) bone 13 : 19, 13 : 19	2
膚	עוֹר ('ör) σάρξ body 22 : 26	1
身	בָּשָׂר (bāsār) flesh 19 : 22, 22 : 2, 28 : 8, 28 : 35, 32 : 24, 32 : 29, 33 : 4, 33 : 6, 33 : 10, 39 : 5	10
身をか がめる	4 : 31, 12 : 27	2
乳	חָלָב (chālāb) γάλα milk 2 : 7, 2 : 9, 2 : 9, 3 : 8, 3 : 17, 13 : 5, 23 : 19, 33 : 3, 34 : 26	9

IV. 考 察

「出エジプト記」の中で、「人とからだ」に関わる文字を全部拾いあげたところ、283箇所で使用されていることがわかった。この数多い文字の中に、ギリシャや近世の「からだ」にあたる語がない。これは一体何を意味するのであろうか。つまり、このことから、「からだ」という考えもヘブライにはなかったことになるのであろうか。この問題は余りにも大きくまた深淵である。

七十人訳のギリシャ語に σῶμα 「からだ」と訳されたヘブライ原語を、本書の中から

拾おうと試みたが全く見当らなかった。さらに興味あることの一つに、「人」と記されている語は「息」を意味する נֶפֶשׁ (nephesh) が用いられていることである (12:15 1回のみ)。本書の中の נֶפֶשׁ は、15:8, 15:10, 31:17 に使用されており、そのいずれも「息」である。また、本書の中には「人間」という語もない。「からだ」や「人間」にあたる語がないのに、身体の一部たとえば עוֹר (ōr) 「膚」(22:26), עֲרֵף ('ōreph) 「背」(23:27), あるいは「ひと」の肉の面である בָּשָׂר (bāsār) 「肉」(4:7, 30:32) などの名称があることも亦きわめて興味深いことである。



祈りを表わす手，ハズル出土，前13世紀？

また、名称の中で圧倒的に使用回数の多い「手」は、前述のように、あるいは「神対人間」を堅く結ぶという一点で本書の特徴の一つと言えるのかも知れない。しかし、やはり本書の主人公は「モーセ」であり、その中心は、「神の顕言」と「十戒」である。さらにその「契約の書」における身の毛もよだつような一句一句「生命には生命をもって」、「目には目を」、「歯には歯を」、「手には手を」、「足には足を」、「火傷には火傷を」、「生傷には生傷を」、そして「打傷には打傷を」(21:23-25) は、「人」と「からだ」の神に対する刑罰の極致を表わす。これはいわゆる人間相互の相対的な倫理道德の規範ではない。あくまでもこれらは、神の一方向的な愛による生きた「命令書」であることは言うまでもない。

## V. あとがき

F・James の Personalities of the Old Testament (1963) の冒題には、次のようなまことに興味深いことが掲げられている。

モーセ〔前13世紀？〕

奇蹟がありうると信ずるなら、歴史の分野と複雑な現代世界における次の二つこそ、その名に値いしよう。一つはユダヤ人である。紀元70年以來おのが祖国をもたず、全地に散らされ、すべての国民と混合しながらその特性を持ちつづけ、あらゆる地で寄寓者として生き長らえ、常に差別され、しばしば迫害され、それが、今日ですらなお世界のここかしこで、おそらくは単に惰性のためでなく強烈であるが故につづいている、という状態にありながら、どこにいても充実し、進歩的、積極的、天才的な一勢力に数えられている、というこの現象は史上類例がない。

もう一つはユダヤ教で、これによりこの民がこの民でありうるその宗教である。この二つはその起源を「ひとりの人」にまでさかのぼる。

もう一つ、この二つよりはもっと驚くべき事実がある。それはイスラエルから出た、し

たがって同じ人に由来する世界的宗教、キリスト教である。第4の事実もつけ加えられよう。イスラムすなわちモハメッドの民の宗教は、同様に究極的にはこの人すなわちモーセにまでさかのぼりうる (p. 9~p. 10)。

人間モーセの探究のための主要な資料は、五書の最古の二文書である。つまり、「ヤハウエ資料」(J資料 B.C. 850?)と「エロヒム資料」(E資料 B.C. 750?)が、モーセに関する最古の伝承を含んでいる。また、「出エジプト記」は、「創世記」の場合と同じように、これら二つの資料の他に「祭司資料」(P資料 B.C. 450?)が複雑にからみ合って現在の形をとっている。ここで資料問題を取り上げるのは、「出エジプト記」の主人公であるモーセという人材が、果たしてどんな「人」であったかということと、すべての艱難にも打ち勝ってゆくために、どのような「からだ」の持ち主であったかという史実性を把握しなければならないからである。

一般的にわれわれのもつモーセ像は、かれはエジプト人を打ち殺し、井戸のかたわらでエテロの娘たちに助けられ、与えられた使命に対して神と論争し、要求をひき上げてパロの前に出、紅海に面してその民に安全を保証し、エテロと話合い、一日中すわったままで民の訴えをさばき、神に会うためにシナイに上<sup>の</sup>ぼり、石の板を打ち砕き、金の牛を粉碎し、その礼拝者への決定的な刑罰を執行し、民のために執りなし、民のため食物と水を見出し、アマレクに対しやむことのない聖戦を命じ、たび重なる反乱に激怒する、などである。

神は、「一人の人モーセ」を召命したと本書は記す。かれにとって、「召命」とは一体何だったのであろうか。神にひきづり出されては神の手の届く位置にモーセは立つ。立って、どなられ、なだめられ、そして一方的な指示をうける。しかもそれを遵守しなければ「殺す」と言われておどかさされる。著者にはモーセという男が小心者に思えてならない。なぜならば、神の言葉の一言一言に畏れ、おびえ、またその度ごとに吐き、そして吸うかれの「息」する音が聞えてくるようであるからである。かれは強情な民の訴えを一日中坐ったままで聞きまた書いた (18:15)。

この一筆からもかれの「からだ」と「人」の強さを察知することが出来ない訳ではないが、全篇を通して受けるかれの人間像は、やはり、小さく、純で、自由なハートの持主であったように思う。その根拠は、モーセ自身を中心に考察するのではなくて、神がいかにかれをこきつかい、ひきづりまわしたかを見れば明らかであるからである。正しい義しい者には苦難が多い。神に愛されている証拠である。モーセこそ正にその「人」であり、その使命を全うするために「からだ」を休めるいとまがなかったのである。聖詩人はうたう (34:19)——

יְהוָה יִצְלֵנוּ וְיִקְרָאנוּ  
 (ヤハウエは) (彼を救う) (すべてその中から) (義しい人は) (苦しをもつ) (多くの)

ただ義しい人、その人はただ苦難のみ、

ヤハウエ、その苦難のすべての中から救う。(私訳)

また、「ヘブライ人への手紙」の訳者も亦こう記す (12:5 b-6)——

5 b υἱέ μου, μὴ ὀλιγώρει παιδείας κυρίου  
 (息子よ) (わたしの) (ないがしろにするな) (訓練を) (主の)

μηδὲ ἐκλόου ὑπ' αὐτοῦ ἐλεγχόμενος·  
 (またおどおどするな) (よって) (彼に) (遺責されても)

6 ὃν γὰρ ἀγαπᾷ κύριος παιδεύει, μαστιγοῖ  
 (者を) (なぜなら) (愛する) (主は) (訓練し) (懲らしめられる)

δὲ πάντα υἱὸν ὃν παραδέχεται.  
 (すべて) (子は) (ところの) (愛を受ける)

5 b 倅よ、主の特訓をバ甘くみるな、どんなに  
 やっつけられても、バタバタするな。

6 それは、主のお気に入りの方を特訓し、  
 その方を徹底的にやっつけるからさ。(私訳)

ヤハウエから終生懲らしめを受けるのは、モーセに限らない。ヤハウエに掴まった者は、彼のように、いや彼以上に特訓を受けねばならない。それは、五千年の人類の歴史が物語る。しかし、なぜモーセがヤハウエに捉えられたのであろうか。わからない。ただイエスが「わたしを遣わされた父上(ヤハウエ)が引っ張ってくだされなければ、だれもわたしの所に来ることは出来ない。」と言われた言葉だけがその秘密を解くカギであらうか(ヨハネ福音書・6:44)。また、ヤハウエに捉えられた者がなぜ皆多くの苦難(くるしみ)を受けねばならないのであろうか。これもわからない。そしてさらに、なぜその苦しみが「からだ」の苦しみになくてはならないのであろうか。

本文中のギリシャ語、ヘブライ語の字母は平沢所有のものを使用。

### 参考文献

- 1) BIBURIA HEBRAIKA : Edited by RUDOLF KITTEL (1937)
- 2) Interlinear Hēbrew-English Old Testament : KREGEL REPRINT LIBRARY by George Ricker Berry (1975)
- 3) THE NEW ENGLISH BIBLE : OXFORD UNIVERSITY PRESS. CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS (1970)
- 4) SEPTUAGINTA : Edited by Alfred Rahfs. EDITIO SEXTA (1931)
- 5) THE MOFFATT TRANSLATION OF THE BIBLE. CONTAINING THE OLD AND NEW TESTAMENTS : by JAMES MOFFATT (1964)
- 6) The Body : J. Robinson : p. 11, n. 2 (1952)
- 7) 旧約聖書 : 関根正雄. 創元選書・創元社 (1966)
- 8) 旧約聖書総論 : ゼリンニロスト・関根正雄訳. 待晨堂 (1965)
- 9) 旧約聖書の人びと I : F・ジェイムズ・山本七平訳. 山本書店 (1985)
- 10) 旧約聖書 : 日本聖書協会 (1956)
- 11) 聖書語句大辞典 : 教文館 (1959)
- 12) 出エジプト記 : 関根正雄訳. 岩波文庫 (1969)

- 13) 新聖書大辞典：キリスト新聞社（1971）
- 14) 古代思想にあらわれたひととからだ：真方敬道．聖書とその周辺・伊藤節書房（1959）
- 15) キリスト教大事典：教文館（1968）
- 16) 古典の中の人と体(1)——詩篇の中から——：平沢彌一郎・臼井永男．放送大学研究年報第5号（1987）
- 17) 古典の中の人とからだ(2)——創世紀の中から——：平沢彌一郎・臼井永男．放送大学研究年報第6号（1988）
- 18) 聖書を読む：平沢彌一郎・論創社（1987）
- 19) 小使徒：平沢彌一郎・小使徒社（1989）
- 20) NOVUM TESTAMENTUM GRAECE：BESTLE-ALAND. 26th.（1979）  
 （平成元年12月19日受理）